

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A項

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B項

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C項 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

\*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

\*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

問一 7点(模範解答例)

A ○4点

読書は自分の頭ではなく他人の頭で考えることにつながり、

B ○3点

それがどれくらい必要なのか、わからないから。

※A・Bに関して部分採点

A 読書は自分の頭ではなく他人の頭で考えること…4点

\*「読書は他人と言葉を共有すること」という指摘…3点

B それがどれくらい必要なのか、わからない…3点

\*「読書はマイナスにしかならない」という指摘(マイナス)というのはショーペンハウエルの見解にすぎない)  
…2点

問二 5点

無駄に見え

問三 5点

ハ

問四 各4点×2

X||ニ Y||ロ

問五 5点(完全解)

第二番目5・第三番目10

問六 15点 (模範解答例)

A 〇2点

「筆者は、八木重吉の「草をむしる」という詩を読んで、」心に草をむしる行為を繰り返して、

B 〇5点

「わたし」の「かるくなってくる「感じや、遠くへ運ばれていく感じを味わった。

C 1点

その感覚は、子供の頃、どこまでも行けるような電車の中で、

D 2点

少年たちが無心に芝を撒き散らす光景を見て、

E 5点

遠い場所を思い描いたときの記憶を想起させた。

※A・B・C・D・Eに関して部分採点

A 詩人が(草をむしる)行為を繰り返していること…2点

B 「わたし」が詩から「かるくなってくる」感じや、遠くへ運ばれていく感じを味わったこと…5点

C 子供の頃、どこまでも行けるような電車に乗った経験の説明…1点

D (電車で)少年たちが無心に芝を撒き散らす光景を見たことの説明…2点

E 遠い場所を思い描いたときの記憶を想起させたことの説明…5点

問七 5点

ホ

□ 山竹伸二「認められたい」の正体 承認不安の時代

問一 各2点×4 (計8点)

- 1 細心
- 2 酷似
- 3 利(いた) (本文「気の利いた発言」)
- 4 渴望。

問二 8点

二

問三 6点 (模範解答例)

自らの行動の指針を自分が信じる価値観や信念に求める (25字)

問四 各5点×2 (計10点)

- I ホ
- II ロ

問五 9点 (模範解答例)

A ○3点

B ○3点

個人が生きる意味を見出すための社会共通の価値観である「大きな物語」の偽物を捏造し、

C ○3点

内心疑念を持ちつつも形式的に信じるふりをすることで生きる価値を見出して

いる。 (79字)

※A・B・C・Dに関して部分採点

A 個人が生きる意味を見出すための社会共通の価値観である「大きな物語」(3点)

※「大きな物語」の内容を説明していないものは、要素A加点なし。

B 「大きな物語」の偽物を捏造し(3点)

※『『大きな物語』の偽物を捏造すること』を説明していないものは、要素B加点なし。

C 内心疑念を持ちつつも形式的に信じるふりをする「ことで生きる価値を見出している」(3点)

※A・Bを「疑念を持ちつつ」「形式的に信じるふりをする」を説明していないものは、要素C加点なし。な

お、「〜こと」で終わり、「〜で生きる価値を見出している」がなくても可

問一 4点

4

問二 各3点×2 (計6点)

- (1) 枕詞
- (2) むば玉の

問三 各1点×3 (計3点)

- ㉞ あんどん
- ㉟ ふぜい
- ㊱ いおり

問四 各4点×3 (計12点) (模範解答例)

B 道行く人が来るのを待って、先に 通したい。 (4点)

- ※ a 「道を行く人が来るのを待って」…1点。「道行く人」「後から来る人」のような言葉の補い。
- b 「先に」………1点。「先に」「前に」などの言葉の補い。
- c 「通したい」…2点。自己願望の終助詞「ばや」の「〜たい」という解釈。「〜してほしい」はダメ。

C もはやそこから逃げることができそうにもなかつたので (4点)

- ※ a 「もはや」…1点。「すでに」「すぐに」も可。
- b 「逃げる」ことができそうもなかつたので。「え〜打消語」という不可能の意。「できる手段もない」「できさる様子でもない」も可。
- c 「たので」…1点。「〜たので」のように「過去の意味+原因理由」がそろっていること。「〜ので」のように過去の意味のないものは零点。

E 側にいた男もわけがわからないというふうな顔で梁の上の女を見る。(4点)

- ※ a 「側にいた男も」…1点。「これも」を具体的ににする。「側の(博奕打ちの)男も」でも可。
- b 「わけがわからない」というふうな顔で…2点。「理解できない」という様子で「も可」。
- c 「梁の上の女を見る」…1点。「隠れている」女を「のような「見る」の対象を補う」。

問五 各2点×3 (計6点)

- 1 ハ
- 2 ホ
- 3 イ



四 『莊子』外篇〈達生第十九〉

問一 各2点×4 (計8点)

a 〓こたえて    b 〓いえども    c 〓もつぱらにして    d 〓ゆえんの

※ 現代仮名遣いのみ可。歴史的仮名遣いは不可。

問二 7点

a 〇1点    b 〇2点    c 3点    d 〇1点

梓慶の作った 鑠を見た者は、あたかも鬼神のなせるわざのようだと 驚嘆した。

※ b 「鑠」は、「楽器」も可。「鑠を見た」「楽器を見た」など目的語が無い場合は不可。

c 「梓慶は鬼神のようだ」とするもの1点。「鑠(楽器)」が「鬼神のようだ」は×。

「あたかも」はなくとも可。「鬼神が作ったものようだ」「神技によって作られたようだ」など。

d 「驚いた」は不可。「驚嘆した」「感心した」など。

問三 5点

なんのじゆ(ゆ)つかこれあらん

問四 3点

ニ

問五 5点

未<sup>ニ</sup>嘗敢以耗<sup>レ</sup>氣也

※ 送り仮名を付けたもの：減点2点

